

三・『越谷での

「女性に『院殿号の戒名』が表記された墓碑」との邂逅』

坂本 誠一郎

一・はじめに

昨年に引き続き、越谷市郷土研究会 顧問 加藤 幸一氏が、平成5年度から十余年要した【越谷市内10地区別の石仏・石塔 悉皆調査】を、パソコンデータ【絵図及び正面・側面・裏面に刻まれた文字情報】での検索のお許しを頂き、今回は越谷市に所在の「女性 院殿号の墓碑」をテーマに調査を行い、第3項表記の邂逅がありました。

二・今回の調査を目論みましたきっかけ

そのきっかけは、かつて研究会月例行事で、東京都足立区東伊興にある浄土宗・法受寺（ほうじゅじゅ）を訪れたときです。この寺院には、「徳川第三代将軍 家光の側室・第五代将軍 綱吉の生母」である【桂昌院の院殿号】が表記されたお墓に邂逅しました。

画像は法受寺からのご提供



写真・筆者撮影

流石に著名なお方の戒名に興奮を覚えました。この時女性院殿号を初めてハッキリと意識し、もしかしたら我が郷土越谷にも女性の院殿号墓碑は無いものかと俄然興味が湧きいでました。

(注) この桂昌院については、『越谷市内、三野宮村・一乗院』にも越谷市作成の『説明板』(21頁上段の写真) がございますのでご参照願います。

この説明板の発見により桂昌院は、越谷市にとりましても身近なお方であったのだと親しみを感じました。

三. 越谷市内での「女性の戒名・院殿号」との邂逅

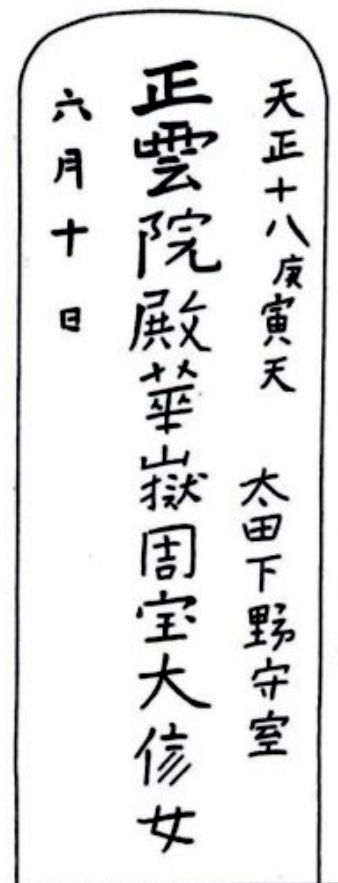
上記意識をしたとはいえ、越谷は幕府領・藩領・旗本領などが入り交じっていて、どこから手を付ければ良いのか皆目見当がつきませんでした。その後「文化財パトロール」の際など意識して墓碑を拝見していききましたが、何分広域・多数でありそこで気付いたのが「上述加藤氏の石仏・石塔悉皆調査」でありました。

その結果、思いがけず3カ所での邂逅がございましたので今回発表の機会を頂戴しました。

【第一の邂逅】

所在場所 越谷市 西新井 路傍

加藤氏の表題 『椿割塚（つばきわりづか）の墓塔』



〔正面〕

天正十八庚寅天 太田下野守室

※太田下野守とは、

伝説上は太田十郎氏房、

正雲院殿華嶽周宝大信女 史実は、太田下野守

六月十日

康宗と推定される。

※斎藤家の椿割塚とは、椿が植えられたという斎藤家二代目の母の塚



写真・筆者撮影

《椿割塚の伝説》

天正十八年（一五九〇）に豊臣勢は北条氏の本拠である小田原城を攻める。北条氏の支城である岩槻城では、城主太田氏房が小田原城にいての留守中に豊臣勢によって包囲され攻められる。古文書「斎藤来由」（元治元年8月2³日に7³歳の白扇著）によると次の通り。（平成三年度 越谷市郷土研究会古文書クラブ学習会資料に³1頁参照）

太田下野守氏房の妻は、西新井の斎藤家に落ちのびようと五歳の岩月丸を連れて（原文では「抱き」となっている）城から逃れ、野島の地藏尊（浄山寺）に来て、夫の勝利を祈念した。このとき地藏の両目から涙が落ちるのを見て、勝利が無いことを悟った。そして妻は、岩月丸を斎藤光郷の子光高に預け、自らは地藏尊の前の浄庵沼に身投げした。後に、この遺骸は西新井の斎藤家屋敷に流れ着いた。そこで光高はこの遺骸を葬り、椿の木を印として植えた。そこで人々はこの塚を「椿割塚」と呼ぶようになったという。浄庵沼とは、山門の前にあつた池、現在は駐車場。

◎出典は『加藤幸一氏の悉皆調査の説明文』からの引用です。

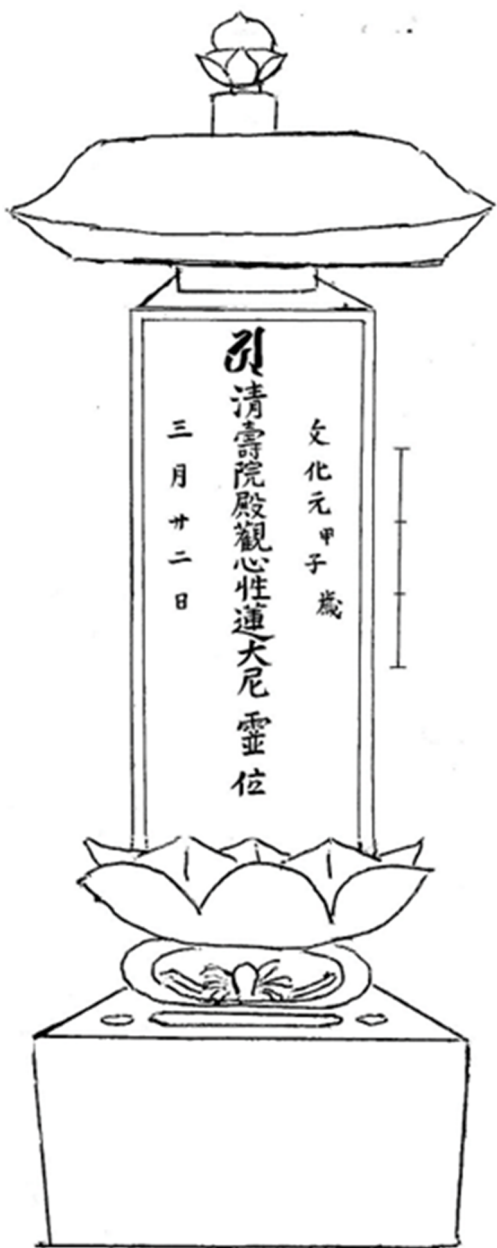
【第二の邂逅】

所在場所

越谷市 増森 「宝生院」

加藤氏の表題

『林家の墓所にある文化元年などと刻まれた笠付き墓塔』



年号 文化元年(1804)

◎この近くの林家の墓所に文化元年（一八〇四）の次のように刻まれた笠付きの墓塔がある。

文化元 甲子 歳

（梵字ア）清寿院殿観心性蓮大尼靈位

三月廿二日

大名につける格式の高い「院殿」が付けられているので、大名に仕えた程の位の高い女性であったのであろう。

『越谷ふるさと散歩(下)』の93頁に、「伝えによると増森のある娘がお城にাগり殿様の側室になったといわれ、その人の供養墓石ではないかともいわれるが、詳しいことは不明である」と紹介されている。

◎出典は『加藤幸一氏の悉皆調査の説明文』からの引用です。

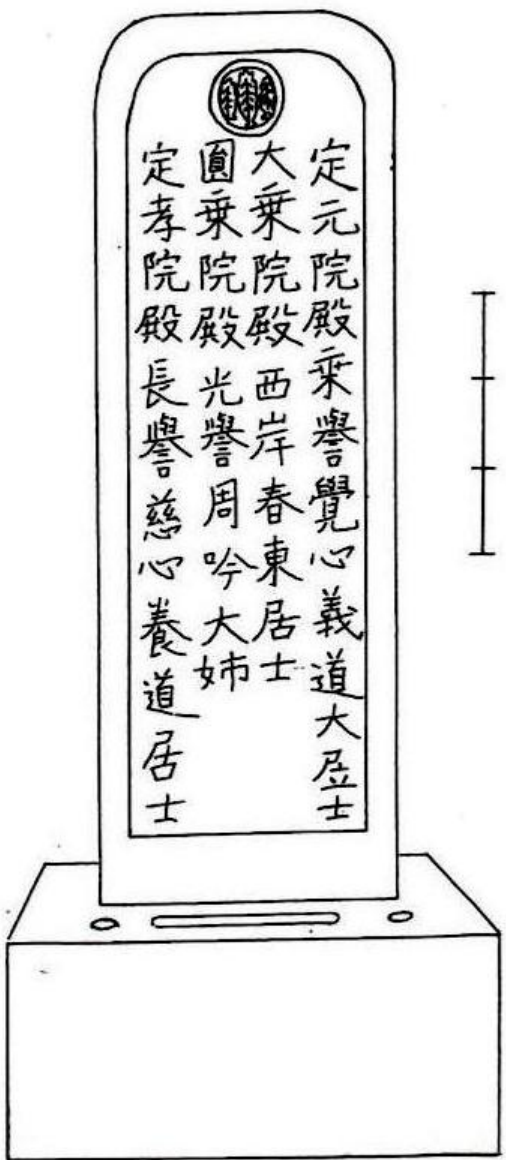
【第三の邂逅】

所在場所

越谷市 大松 「清浄院」

加藤氏の表題

『大川戸 杉浦家の墓塔』



定元院殿乗譽覚心義道大居士
大乗院殿西岸春東居士
圓乗院殿光譽周吟大姉
定孝院殿長譽慈心養道居士

〔左側面〕

定元 濃州竹ヶ鼻之城主杉浦五郎左衛門定元、慶長五年庚子八月二十一日籠城討死

大 御代官杉浦五郎右衛門定政、定元之長子、慶長十八年癸丑二月十六日於支配所秩父郡卒

〔正面〕

定元院殿乗譽覚心義道大居士

(家紋) 大乗院殿西岸春東居士

圓乗院殿光譽周吟大姉

定孝院殿長譽慈心養道居士

〔右側面〕

円 杉浦定政之室、深津弥右衛門女、寛永二十一年甲申二月二十六日卒

定 杉浦勇次郎定孝、定元之二子、定政之弟、慶長五年庚子八月二十一日与父定元共籠城戦死

※家紋は「丸に三本杉」である。杉紋は杉のつく苗木の家で見られる。

※右の文章には、読点が入っているが、これは読みやすくするために筆者が入れたもの。

※大川戸に住む杉浦家の祖は杉浦定政である。定政は関ヶ原の戦いが起こる以前に徳川家康から大川戸の御殿を貰うが、この住まいは反徳川勢力の防御の為か、堅固な砦として造成された陣屋を見なすことが出来るという。

※杉浦家は、その後は 関東代官（関東郡代）の伊奈家に代々仕える有力家臣となる。

◎筆者の付記事項

①杉浦陣屋跡については、松伏町作成の「説明板」（1 頁下段の写真）がご覧いただけます、ご参照願います。

②筆者が所在地を訪問の折りに、新たに判明した事ですが、加藤氏調査の他に、複数の女性院殿号の 墓誌がある事に気づきました。

この家には「複数の女性院殿号のお方がおられました事」のみ追記させていただきます。
◎出典は『加藤幸一氏の悉皆調査の説明文』からの引用です。

越谷市作成 史跡説明板 ←

(写真・筆者撮影)

松伏町作成 史跡説明板 ←

(写真・筆者撮影)

越谷市指定 有形文化財 歴史資料

一乗院の建具

昭和五十九年九月二十七日 指定

真言宗一乗院には、一枚板戸や欄間など、慶長十五年（二六一〇）徳川家康により建立された神奈川御殿の建具類が伝えられている。この建具類は神奈川御殿の解体材で、元禄十年（二六九七）五代將軍綱吉の母桂昌院が真言宗金剛院（現さいたま市岩槻区末田）に寄進したものである。その後、一乗院が旧本堂（平成十一年解体）を再建するにあたり金剛院から譲り受けたものである。

明暦三年（一六五七）江戸城二の丸に移された越ヶ谷御殿の建具類を偲ぶものとして、また越ヶ谷及び越ヶ谷周辺では数少ない江戸時代初期の建具類として貴重な歴史資料といえる。

令和四年十二月 越谷市教育委員会
一 乗 院

「史跡 杉浦陣屋跡」

杉浦家の祖である杉浦定政は、織田家の旧臣であった美濃の国竹ヶ鼻城主杉浦定元の長男でした。定元は徳川家と豊臣家の争いを見越し、定政を徳川方の伊奈氏に従わせました。慶長5（二六〇〇）年の関ヶ原の合戦で徳川方が勝利した後、定政は下総船橋村の代官となりましたが、船橋大神宮再建に際して屋敷を失い、この地にあった大川戸陣屋御殿を拝領しました。この陣屋は、慶長5年に上杉氏討伐のため小山まで出陣していた徳川家康が、石田三成拳兵の報を受けて江戸へ引き返す途中でこの地に寄り、この場所に築くように指示したものです。家康直筆の「坪割書」（指示書）は、陣屋と共に杉浦家に与えられました。

杉浦家は一時無役となりましたが、寛政4（二七九二）年の伊奈氏改易（所領などを没収されること）まで、家臣として長く伊奈氏に仕えて活躍しました。「坪割書」や「伊達政宗書状」といった貴重な史料を含む杉浦家文書は町指定文化財となっています。また、家康が座ったという「家康の腰掛け石」も近くに残されています。

四．越谷との縁が深かった徳川家康。 ところで関連調査を・・・

大河ドラマ「どうする家康」で活躍の正室や側室の戒名にも関心が湧き、ネット検索を始めて、前半く中盤にかけて登場した次の4名の方を参考までに列記させて頂きました。

(注) 文字数は筆者が追記しました。

正妻 築山殿 (瀬名姫)

死去時の戒名 西来院殿政岩秀貞大姉 (10文字)

その後の改称 清池院殿譚月秋天大禅定法尼 (131文字)

継室 朝日姫・・・秀吉の妹

死去時の戒名 瑞龍寺殿光室総旭大禅定尼 (12文字)

その後の改称 南明院殿光室宗王大禅尼 (111文字)

★後に家康が菩提寺・南明院を創建

側室 お万の方・・・結城秀康の生母

死去時の戒名 長勝院松室妙載大姉 (9文字)

★筆者の調査不足かと存じますが、この方は何故か「院殿号」では、ありませんでした
その後の改称 不明

側室 於愛の方・・・徳川秀忠の生母

死去時の戒名 竜泉院殿 (下部戒名は目下未把握)

その後の改称 宝台院殿一品大夫人松誉定樹大禅定尼 (17文字)

★桂昌院は15文字で、こちらの方は17文字でした。しかも正室よりも多い！

【ご参考】 日本で一番長いと言われる、**家康**の戒名

東照大権現安国院殿徳蓮社崇誉道和大居士 (191文字)

ネットでの検索先は、該当者・家康・子息・埋葬されている寺院など多岐・複数に及び、それらの集約版として上記に取りまとめました。従いまして、今回は特定の検索先名の表記が困難でありましたので、不本意ながら省略させて頂きます。何卒ご了承ください。

五. 結びにかえて

①資料 昨年引き続きご快諾賜りました加藤幸一氏に先ずもって衷心より御礼申し上げます。今夏は数十年に一度の猛暑でありましたが、炎暑の最中、現地を訪ねる必要が一切なく、エアコンの効いた部屋で、只々パソコンに向っておれば、悉皆画面検索が可能でした。また、本報告書作成にあたっては、絵図・文章など容易に転写が出来ました。

②今回の調査は、個人的に興味あるテーマであり、今後も現地調査を継続したいと存じます。生涯現役ウォーカーを目指す下名にとって「第4の思いがけない出会い」を求めて「一石二鳥狙い」で探訪を目指したく存じます。また既に「第4の女性の院殿号をご存知の方がおられるかと思ふ」しますので、その方との巡り合わせに期待して行きたい（非生きたい）と存じます。

③家康の側室「お万の方」は、何故か 院殿号の戒名でありませんでした。ドラマの流れとか、子息（結城秀康）の若死に等から、敢えて素人推量をすれば、これもやむを得なかったのかもしれませんが、何たって神君・家康の側室であり、腑に落ちない物を感じます。今後のドラマの成り行きやドラマには未登場の側室などにも興味を持って追跡調査の所存です。

【参考資料】

(1) 『越谷市 10 地区別 石仏・石塔』 加藤 幸一 著

(桜井・新方・大袋・増林・大沢越ヶ谷・荻島・出羽・大相模・蒲生・川柳地区)

(2) 『江戸時代の越谷市内の村々』

越谷市内にあった二町四十九村

江戸時代末期の越谷市内の幕府領・藩領の分布地図 加藤 幸一 作成

江戸時代の越谷市内の村々

越谷市内にあった二町四十九ヶ村

江戸時代末期の越谷市内の幕府領・藩領分布地図

